

慶応三年四月五日より慶応三年四月九日まで

P8310672right

五日子 晴

第八時まで二茶屋に至り重公使を案内、池野(山城)同道にて神戸へもとり地形一見併(なら

びに) 第十一時

帰舎、彼部□前、尋問せらる、□□□り詰所出勤頼合遣す、斉藤六来り面す、同人より

温飧一重贈らる、平山図着せり、尋問せらる、一杯を把る(*)に意なし

六日丑 雨乍止漸晴雲夕晴

病により頼合(たのみあい)加養、英士官アストン、エルデンくる、病により辞して不面、蘭は

滞港英は明後日帰坂

仏垂は明日同断の趣につき組頭弥一を残し、其の段一回(池野城州とも)明日帰坂の積り、

先触出す(蘭も明後日帰坂の事と成る)

七日寅 晴漸に陰

病稍々、愈ゆ、仏公使拝借金の儀申出一条に付、原弥来り□有し、双年、支配向町方の者等

P8310672left

(町方与力吉田猪三郎へ金子調達取計の書、下け渡積り)

呼寄夫々申談、手続先以相頼□ふ、飯塚幸尋問し面す、平図書来り、町方与力周旋の金方は

今夕迄に返達の義等申聞ふ都合に付、右は断り函館会所御金を差繰の旨也、同所詰定役広

瀬虎五郎なる者に初て面す、第十二時二十分過出立夕第六時五分過ぎ尼ヶ崎着、領主より先払

兩人足輕兩人先導す、当駅は本陣なし、明日の先導は断り遣す

八日卯 陰漸晴又陰雨一過

(兵庫より帰坂)第六時前尼ヶ崎出立先導如作、第十時前阪地□前の宿寺願生寺着、午時より大仏

寺へ出 本日

老岐守殿英宿寺にて各公使御談□有しに付、本行寺へ出、御出を待受夫れより右宿寺へ御、随従

薄晩過

退席御同人大小堅、察図□す、□日、□食に残る、美、□殿主□殿迄引続御下阪有し

九日辰 陰漸晴

*1:把る、とる、手に取る

□印は解説未了の文字です。私の実力ではすぐ解説できません。